

「青少年教育指導者ミーティング」

1 趣 旨

- ・青少年教育施設の職員や教育関係者が集まり、人間関係づくりに関する研修を行い、指導に関するノウハウ等の情報を共有し合い、指導技術を高めると共に、研修の成果を山陰地方の学校や団体に広く普及する。

2 事業の概要

(1) 期 日 平成27年10月26日(月)～27日(火)【1泊2日】

(2) 講 師 山口県防府市立富海中学校 教頭 藤田 守弘 氏

(3) 参加者 30名(社会人30人) ※募集20名

(4) 研修内容

1日目	午前	○開会行事・自己紹介・日程説明・オリエンテーション
	午後	○授業参観：鳥取県琴浦町立赤碕小学校
2日目	午前	○講義・演習「人間関係づくりに関する理論」
	午後	○各施設からの情報提供・ふりかえり・閉会行事

3 成果と課題

〈成 果〉

- ・「人間関係づくり」についての研修をしていくという、昨年度からの確認事項をもとにして、研修の流れを組み立てた。指導技術を高めていくためには、実際の指導場면을参観することが有効であろうということで、今回の会場に当たる鳥取県立船上山少年自然の家から働きかけを行い、琴浦町立赤碕小学校での研修が実現した。児童への指導場면을参観することができたことは、研修内容の深化・焦点化を図る上でとても重要であった。また、社会教育施設と学校現場が連携して研修を進めていく足掛かりを築けたという意味でも大きな一歩となった。
- ・部分参加を加えると、参加者は30名と、募集人数を上回った。これまで共に指導者ミーティングを運営してきた山陰地方の県立4施設の他に、広島県の福山少年自然の家にも声をかけたところ、3名の参加があった。福山少年自然の家でもSAFプログラムという人間関係づくりのプログラムを実践しており、こうしたノウハウを交流し合えたことは、「指導技術を高めるとともに、研修の成果を普及していく」という趣旨を実現していく上でも重要であった。
- ・講師として山口県防府市立富海中学校教頭の藤田守弘氏を迎えた。藤田氏は昨年度まで国立三瓶青少年交流の家に勤務し、研修会の趣旨についても深い理解があり、ねらいに合致した指導を行って

いただくことができた。また、実践と理論を組み合わせた研修としたため、参加者からも「人間関係づくりについて、基礎から学ぶことができ、有益であった。」という感想が多く寄せられた。

- ・ 各施設からの実践報告の時間では、他施設の取組について詳しく知ることができると同時に、三瓶青少年交流の家がモデル事業として取り組んできた小学生チャレンジキャンプについて提案を行い、事業のねらいや実際の進め方について広く普及を図る機会となった。

《課題》

- ・ 山陰地域の学校や団体への普及も視野に入れて広報を行ったが、なかなか参加には至らなかった。開催施設地域の学校が所属する教育研究部会に働きかけを行って、指導参観への参加を呼び掛ける等の工夫が必要である。
- ・ 講師の都合もあり、開催時期が当初（5月）の計画から変更となり、10月開催となった。「参加しやすくよかった。」という声があった反面、「研修した内容を活かしていく上では、早い時期の開催が望ましい。」という声もあった。様々な要素を総合的に判断し、事業の実施時期を決定していく必要がある。
- ・ 来年度から取り組む地域力向上事業を推進していくためには、地域の公立青少年教育施設との連携は不可欠となる。今回も今後、共同で研究を進めていきたいテーマについての投げかけを行ったが、国立の青少年教育施設として地域のニーズを的確に把握しながら、地域の教育力の向上につながる取組を推進していく必要がある。



(担当：企画指導専門職 大隅 雅浩)